

# 稽古の修得過程に見る 舞踊美の形成について

志賀山 葵  
糟谷 節子  
石黒 節子

## 1. 目的

踊り手の資質には、生まれつきの素質と、修業によって得られるものが考えられる。素質があっても適確な指導を受けない場合は上達は望めないし、素質が十分でなくとも適確な指導によってある程度までは上達可能である。

本研究では、修業年数を重ねる事によって得られる舞踊美の形成過程を探る為、日本舞踊の江戸最古といわれる一流派を対象にして次の3つの視点から研究を行なった。まず、初心者用として、志賀山流手ほどきのもの「文がやりたや」を16ミリフィルムに収録し、動作分析を行なった。次に、より高度な曲目として、志賀山流を特色づけるなんばの振りが中心となっている静的な「潮来出島」と、動的な「越後獅子」を取り上げて鑑賞者の印象を構造化し、更に演時の呼吸曲線を収録した。

## 2. 研究方法

### (1) 16ミリフィルムによる動作分析

修業年数の異なる2人(3ヶ月, 40年)を対象に、正面と横向きから撮影し、Nac Sportiasを通して分析し、手のはこび方、体軸のぶれ方、肘の引き付け方に焦点をあてて比較した。

### (2) 鑑賞者の印象

修業年数の異なる2人(20年, 40年)による踊りを16ミリ映写機で30人の被験者に見せ、その見た印象を評定してもらった。アンケート用紙の評定尺度は、糟谷の研究で使用した22語に、曲目の情調と技に関する言葉8語を付け加えた。アンケートの処理は、主因子解バリマックス法を用い、計算機はNEC PC-9801 Fを使用した。

### (3) 呼吸曲線

修業年数の異なる3人(20年2人, 40年)を対象に、呼吸と踊りを同時に収録し、比較した。呼吸は、サーミスター法にてテレメーターを介して記録した。

## 3. 結果と考察

### (1) 16ミリフィルムによる動作分析

志賀山葵氏は「ブーメランのように体の中心から外へ放射し、又、中心に戻す」という動きの哲学を持っているが、この事は、図1の熟練者の手

のはこび方に表われている。更にこの事は、①体軸の安定(図2)、及び②肘の引きつけ方(図3)にポイントのある事が、動作分析によって明らかになり、志賀山葵氏による報告とも一致する。

### (2) 鑑賞者の印象

踊りの美しさは、見る人によって評価される。ここでは、修業年数の差による動き方の違いが、印象構造にどのような差として表われるかを検討した。

まず、生データの平均値に注目すると、2つの曲目に共通して熟練者の方が0.3以上の差で値の大きい評定語は、「淡白な」と「ためている」である。従って、熟練者の方が淡白で、ためている印象をより強く鑑賞者に与えると考えられる。

次に、バリマックス回転後の因子負荷量のうち絶対値0.92以上の言葉をとり上げ、第I~III因子の解釈を次のようにした。「潮来出島」では、修業年数40年の人、20年の人共に、「快」「執着」「力動」とし、「越後獅子」では「力動」「執着」「快」とした(表1~4)。

しかし、技や情調に関する評定語は、40年の人と20年の人とでは分布の仕方が異なり、「潮来出島」では「指先までゆきとどいた」という技の言葉や「ためている」という情調語は、20年の人には「快」因子に(表1)、40年の人には「力動」因子に(表2)含まれた。又、「越後獅子」において「力動」因子に含まれた技や情調に関する評定語は、20年の人には2つしかないのに(表3)、40年の人には5つも算出された(表4)。

これらの事から、熟練者は「力動」因子の中に技と情調の要素をより多く融合させていると考えられる。

### (3) 呼吸曲線

「潮来出島」において、修業年数40年の熟練者は他の2人に較べるとゆっくりと呼吸をしている。志賀山葵氏は、「潮来出島」の踊り方の注意として、ためる事を指摘しているが、これには呼吸の仕方が深く関わっていると考えられる。

次に「越後獅子」に注目すると、修業年数20年の2人が日常的な呼吸を繰り返しているのに対して、熟練者には、一息吸って止め、又少し吸って吐く、という箇所がある。つまり、熟練者は非日常的な呼吸法で踊ると考えられる。この裏付けとして、洋舞踊においても経験が増すと呼吸が変化する傾向のある事が、石黒によって報告されている。

## 4. まとめ

動作分析、鑑賞者の印象、及び呼吸曲線の調査より、稽古によって習得される美の要素が明らかになった。1つは、身体を中心と円環、2つに、「淡白な」「ためている」印象及び「力動」因子における技と情調の融合、3つに呼吸のため方と

非日常的な呼吸法である。

(2) 志賀山葵 石黒節子 「日本舞踊の基礎技法について」 舞踊学第7号 1984年

(3) 石黒節子 「おどりの間と呼吸」 現代のエスプリ至文堂 昭54年

参考資料

(1) 糟谷節子 「身体表情の因子分析的研究」 舞踊学第8号, 昭60年。

「文がやりたや」両手で扇子を持ったおすべりの動作分析

図1 手のはこびかた

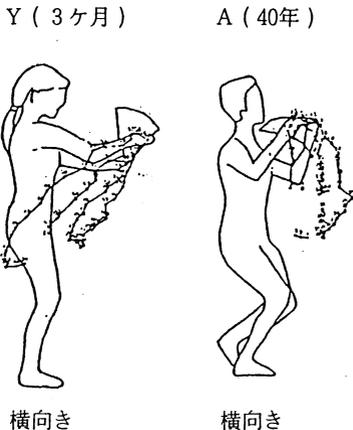


図2 体軸のふれ方

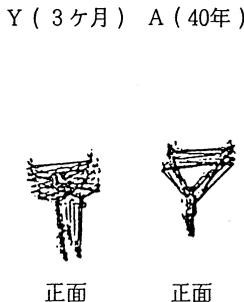
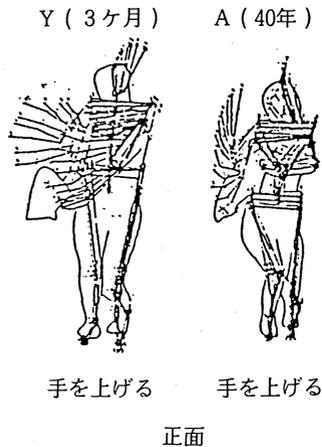


図3 肘の引きつけ方



鑑賞者の印象の因子行列

(○印は、技及び曲目の情調に関する評定語)

表1 T (20年) 「潮来出島」

(類積寄与率 53.95%)

第Ⅰ因子	第Ⅱ因子	第Ⅲ因子
愛情深い .989	苦しい .997	力強い -.951
なめらかな .977	びっくりした .991	意志のはっきりした -.949
幸福な .976	恥しい .976	めりはりのある -.943
○指先までゆきどいた .964	腹立たしい .959	
夢想的な .948	恐ろしい .952	
○ためている .928		

因子名 「快」 「執着」 「力動」

表3 T (20年) 「越後獅子」

(類積寄与率 53.71%)

第Ⅰ因子	第Ⅱ因子	第Ⅲ因子
激しい .978	苦しい .997	しっとりとした .986
○のっている .965	ばかにした .996	夢想的な .985
○めりはりのある .958	恐ろしい .996	愛情深い .939
力強い .958	腹立たしい .982	
意志のはっきりした .939	いやな .975	
	悲しい .972	
	嫉妬深い .945	
	恥しい .944	

「力動」 「執着」 「快」

表2 A (40年) 「潮来出島」

(類積寄与率 56.51%)

第Ⅰ因子	第Ⅱ因子	第Ⅲ因子
幸福な .998	腹立たしい .990	意志のはっきりした -.980
楽しい .998	びっくりした .982	○しっとりとした -.975
派手な .997	苦しい .974	○ためている -.961
軽やかな .980	悲しい .961	○指先までゆきどいた -.954
夢想的 .972	恥しい .944	力強い -.926
希望のある .945	恐ろしい .943	
	いやな .932	

因子名 「快」 「執着」 「力動」

表4 A (40年) 「越後獅子」

(類積寄与率 53.87%)

第Ⅰ因子	第Ⅱ因子	第Ⅲ因子
○めりはりのある .993	恐ろしい .991	愛情深い .991
○のっている .992	恥しい .989	夢想的な .976
○指先までゆきどいた .991	嫉妬深い .975	幸福な .953
○体軸の安定した .991	腹立たしい .966	
力強い .980	苦しい .959	
○派手な .966	悲しい .953	
表情豊かな .962	いやな .938	
ためている .938		
淡白な .923		
なめらかな .921		

「力動」 「執着」 「快」